

一、昭和七年十二月十一日開催東京交通労働組合臨時大会

東交の現状に就いて、これを識る爲には昨年におつて、かの當局更生案發表を動機として勃発した十一月爭議解決後の十二月十一日組合が開催した臨時大会を起卓として觀察しなければならぬ。

東交が今日のやうに、その無統制を暴露して、混乱し壊滅の危機をさへ思はしめるに至つた原因を觀るに、我が國の行き詰つた經濟的並に社会的諸事情、或は當局の事業經營方針及労働行政の反影等他動的影響の然らしむるもの或は組合内部に於ける指導精神を失つた組合幹部の行動並に思想的対立の内紛等混然たる諸事由は期を同じうして沈滞せる東交にかゝる苦境を招来したものである。

而して東交内紛の表面化並に混乱への端緒は即ち十二月開催された臨時大会に於ける選出本部役員が余りに勢力を伸べる所謂幹部級を以て構成せられたことにありと觀ることが出来る。

十二月の臨時大会は十月二十日敢て開催せる昭和七年度年次大会に選出せられた本部役員が、當局の断行した更生案實施の難に過つ